

Artfull うちうら

[発行]
 内浦公民館
 〒919-2351
 高浜町山中104-4-2
 TEL.0770-76-2007
 FAX.0770-76-2008
 E-mail
 uchiura_c.c@town.takahama.lg.jp



古きものリメイク教室



令和8年2月14日(土)

内浦公民館会議室で古きものリメイク教室を開催しました。講師は、やまぼうしの会の皆さん。初めにリメイク作品を見せていただきました。着物素材で作った羽織、ベスト、ワンピース等種類の多さに興味津々。作品のアイデアを聞いたたびに皆さん感心しておられました。今回はティッシュ入れの作り方を教わり、手縫いで仕上げました。次回の開催をお楽しみに！

おからを使った味噌づくり



令和8年2月22日(日)

内浦公民館2階調理実習室でおからを使った味噌づくりを開催しました。講師は一瀬ひろみさん。簡単で手軽に作る方法とおからの栄養について教わりました。3ヶ月以上発酵させて味噌は完成。気になる味を体験してもらおうと、お味噌汁と焼きおにぎりの試食がありました。皆さん美味しさに大満足。自分が作った味噌を使うのが楽しみです。

- 開館時間 午前8時30分～午後10時
 - 利用時間 午前9時～午後9時30分 夜間利用が無い場合は午後5時で閉館いたします。
- <4月の休館日> 6日(月)・13日(月)・19日(日)・20日(月)・27日(月)



ロープのくくり方教室

2月28日(土) 13時30分～

講師 元漁師 森治 隆之氏

2月28日(土)日引ふれあい広場でロープのくくり方教室が行われました。荷造り等色々なシーンで、知っていれば役に立つくり方です。簡単に出来そうなのに、実際にやってみるとうまくいかず、不思議だったり笑いが起きたり、和やかな時間を過ごされていました。



内浦地区の昔ばなしを紹介します！



ハシダンの柿

晩秋のある晴れた日のことである。諸国巡礼中の弘法大師が、青葉山のふもとにある難波江という地をお通りになっていた。その道のちょうど両脇には、柿の木がたくさん並んでおり、その木々には真っ赤に熟れた数えきれないほどの柿が、今にも落ちんとばかりにぶらさがっていた。「まったく、よく実った柿だなあ」弘法大師は、次から次へと目に飛び込んでくる立派な柿に感心しながら、てくてくと歩いていた。柿の木の陰からその様子を見ていた里人は、さっそく弘法大師に近づいていった。「もしよろしかったら、わたしの育てた柿をおひとつ差し上げましょう」里人がそう言うと、弘法大師はたいへんお喜びになった。「それはそれはありがたい。では遠慮なくいただくことにしよう」里人は、たくさんある柿の中から一番立派なものをひとつ選び出した。そしてそれをプツンともぎ、惜しみなく弘法大師に差し上げた。弘法大師は、たいへん感謝してその柿を受け取り、何やら念仏を唱えながら去っていったのだった。その翌日のことである。「そろそろ、柿をとって帰るとするか」のんびりしていた里人は、ようやく家族のために柿をもぎに出かけた。そして、昨日よりさらに赤く熟れている柿を、まずひとつだけ口にした。「ふむふむ、こいつはうまい。昨日のお方もきっと満足されたに違いない」もぐもぐとおいしそうに柿を食べながら、里人はいつものように種を出そうとした。「ん？」ところが、いくら舌で探しても種はひとつも出てこない。「こいつは種のない柿なのか…いや、そんなはずはない。きっと、あやまって呑みこんでしまったのだろう」そう思い込んだ里人はおなかをさすりながら、柿をいくつか家に持って帰った。さっそく家中でその柿を食べていると、里人のおかみさんが、「ありゃ、種がどこかへ行ってしもたわ」と不思議そうに言った。「やっぱり今年の柿は、種がどこからか抜けてしまったのだろう」里人は心の中でつぶやいた。昨日柿をもらった弘法大師が、その御礼に難波江の柿の種を全部抜いてしまわれたとは知らずに…。

それからというもの、難波江の柿には種がなくなり、渋みもぬけて風味が増したという。この種なし柿を、難波江では、“ハシダンの柿”と呼ぶそうである。

(若狭高浜 むかしばなし 参照)



今回は夏川草介著「スピノザの診療室」です。

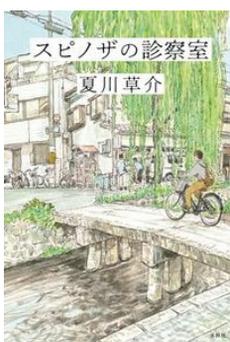
京都の町中の地域病院「原田病院」で働く内科医の雄町哲郎は、かつては、大学病院で数多くの難手術を成功させ、内視鏡手術の第一人者として、将来を嘱望されていたが、最愛の妹が亡くなり、その息子龍之介を育てるために大学病院を辞めたのだった。上司の反対を押し切って退局をしたため、大学へは出入り禁止の状態となっていた。しかし大学での同僚や後輩の医師たちからは厚い信頼を得ていた。大学准教授の花垣は医師としての力量も社交性も兼ね備えた二歳先輩であるが、哲郎の医師としての力量に惚れ込んで、何度も大学に戻ってくるよう要請している。花垣は愛弟子の南を研修としてこの地域病院に送り込んでくる。

「原田病院」では、哲郎の他、外科医や精神科医など4人の医師が働く中規模の古い病院で、個性的な医師たちは、忙しいながらも、チームワークはうまく取れている。その中でも哲郎はいっぷう変わった医師として認知されている。哲郎は患者に向き合うとき、「治す」ことより「どう生きるか」を重視している。

出張中の花垣から緊急の電話が入る。9歳の肝移植をした少年の胆管狭窄(キョウク)を起こし緊急のERCP(内視鏡とX線を使った胆管への施術)が必要だった。現場にガイド・ワイヤー・テクニックがずば抜けている哲郎のアドバイスが必要だとの依頼だった。部外者が手術室に立ち入ることの責任は花垣が負い、キャップにマスクを付け、目だけをだした哲郎は医師の中に紛れ込み、困難を極める状況で、的確な指示を出し手術は成功する。

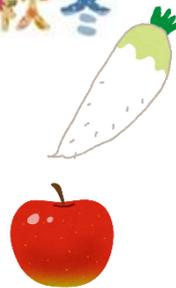
スピノザは17世紀のオランダの哲学者ですが、「現実とは神性と同一である」とする汎神論または万有神論者です。もう少し簡単に説明すると、自然界のすべては神の意思によって存在しており、我々人間も自分の意思によって運命を変えることはできない。神を擬人化(形のあるもの)することを否定したため、無神論者のレッテルを貼られ異端視され、批判を浴び不遇な一生を送ったとされていますが、優秀なレンズ磨きの職人だったことは有名です。

哲郎は南に言います。「人間は無力な生き物で大きな世界の流れをかえることはできない。こんな希望のない宿命論みたいなものを提示しながらも、スピノザは人間の努力を肯定している。だからこそ努力が必要なんだ。医療の力なんて、本当にわずかなものだと思っている。人間はどうしようもなく儂い生き物で、世界はどこまでも無慈悲で冷酷だ。そのことを、私は妹を看取ったときにいやというほど思い知らされた。人は無力な存在だから、互いに手を取り合わないで、たちまち無慈悲な世界に飲み込まれてしまう。手を取り合っても、世界を変えられるわけではないけれど、少しだけ景色は変わる。真っ暗な闇の中につかの間、小さな明かりがともるんだ。その明かりは、きっと暗闇で震えている誰かを勇気づけてくれる。そんな風にして生み出されたささやかな勇気と安心のことを、人は「幸せ」と呼ぶんじゃないだろうか。」哲郎の考える医療の根底にはスピノザ哲学があることを示しています。



自然とつながる四季のセルフケア講座(春)

春
夏
秋
冬



令和8年3月1日

内浦公民館2階調理実習室と多目的ホールで、自然とつながる四季のセルフケア講座を開催しました。講師は山崎慶子さん。陰陽五行説と春におすすめの食べ物を試食した後ストレッチを教わりました。体の臓器を整える事によって得られる体調の変化も詳しく教えていただきました。四季を通して体のケアの方法を学ぶ講座です。次回の開催もおたのしみに!

内浦公民館講座のお知らせ

参加者
募集中

*3月17日(火) 元気あつぷ生き活き倶楽部
13:30~15:00



*3月27日(金) 3B体操
13:30~14:30 講師 藤内幸子さん



*3月28日(土) ランニング教室
10:00~12:00 講師 大西雄三さん



*3月29日(日) ぐる~っと内浦
13:30~15:00 講師 鯨本真由美さん



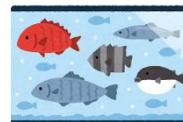
*4月11日(土) バドミントン講座
10:00~12:00 講師 今村文彦さん



古きものリメイク教室
13:30~15:30 講師 やまぼうしの会



*4月13日(月) 春のハイキング
9:00~12:00 行先 高浜町漁協



*4月22日(水) 麻雀教室
10:45~12:15 講師 石本祥次さん

